外国文献紹介

大動脈弁輪の大きさを自動化された三次元経食道心エコー法および多列検出器型X線CT装置を用いて計測する際に大動脈弁の石灰化が両者の計測値の一致に及ぼす影響について

Podlesnikar T et al：Influence of the quantity of aortic valve calcium on the agreement between automated 3-dimensional transesophageal echocardiography and multidetector row computed tomography for aortic annulus sizing. Am J Cardiol 21：86-93, 2018

筆者らは，重篤な大動脈弁狭窄症で経カテーテル大動脈弁置換術を実施した83例について，術前に三次元経食道心エコー法（TEE）および多列検出器型X線CT検査（MDCT）を行い，大動脈輪の直径や周囲長，面積を計測した。大動脈弁の石灰化はCT検査で評価した。その結果，3D TEEの計測値はMDCTの測定値と比べて，やや過小評価する傾向がみられた。また大動脈弁の石灰化が弱い群では，3D TEEとMDCTの計測値に良好な一致がみられた。そして，自動化された3D TEEは特に大動脈弁の石灰化が弱い群では正確かつ再現性の高い計測が可能であり，心臓弁置換術に用いる人工弁の大きさを決めるうえで有用と考えられると述べている。

瀬戸一彦

2026/09/15 13:32:25